

「いつも笑顔で元気です」

佐賀中学校

「人間を大事に」

「自他ともに大切にすることができ」

校長 宮崎 宏治

◆はじめに

本年度は校区の拳ノ川小より1名、佐賀小より17名計18名の新入生を迎え、全校生徒52名、教職員18名で2023年度の教育活動がスタートしました。

◆本校の学校教育目標

本校では長年に渡り「『人間を大事に』『自他ともに大切にすることができ』」を学校教育目標に掲げ、人権・同和教育を基本に据えながら、さまざまな教育活動に取り組んできました。また、2012年に内閣府が公表した南海トラフ地震の被害想定で全国最大級の34・4mの津波高が示されてからは、防災教育にも力を入れて取り組んでいます。

◆本校のめざす生徒像

本校では、育成をめざす生徒像を次のように設定しています。

○自他の違いを認め、自他ともに大切にできる生徒

○学ぶ意欲を持ち、自ら考へ行動できる生徒

○ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに貢献する生徒

○困難に負けず、最後までやり抜く生徒

◆佐賀中作法「時を守り 場を清め 礼を尽くす」

時間を守る、身の周りの整理整頓・後片付けをする、誰に対しても誠実な接し方をする。こうした習慣は、学校生活だけでなく、将来の社会生活においても大切に、中学生の段階でぜひ身に付けて欲しいものです。昨年度から、学校生活のさまざまな場面で、この「時を守り 場を清め 礼を尽くす」を意識して行動できるように、生徒会や学級委員会が朝礼などで全校生徒に声掛けを行ってくれています。

◆本校の取組の紹介

1、地域との連携の推進

令和3年度から、隣接する佐賀小学校と合同で学校運営協議会を立ち上げ、子どもたちの健やかな成長をめざし、学校、地域が一体となって子どもたちの成長を支援する取組を進めています。

ます。5月30日(火)に1回目の学校運営協議会を開催し、今年度は、「挨拶」「防災」「つながり」を柱に取組を進めて行くことを確認しました。

2、保小中の連携

本校は、長年に渡り校区にある佐賀保育所、伊与喜小学校、拳ノ川小学校、佐賀小学校と連携した取組を行ってきました。具体的には、管理職がお互いに保育所や学校を訪問し、保育や授業の現場を参観し意見交換を行ったり、8月に全教職員による合同研修会を開催したりしています。

また、中学生が家庭科の保育の授業の一環として佐賀保育所の子どもたちと交流したり、佐賀小学校への絵本の読み聞かせを行ったしています。今年度からは、拳ノ川小学校にもICT機器を活用した遠隔での読み聞かせを予定しています。

3、中学校教員による小学校での授業

これまでも隣接する佐賀小学校の授業を中学校教員が参観したり、道徳の授業などを年に数回行ったりしています。

ていましたが、今年度からは3、4年生の外国語活動、5、6年生の英語と体育を通年で教えに行くようになりました。

通年で授業を行うことで、

小学校での指導内容と中学校での指導内容のつながりがより一層明確に理解できるようにになりましたし、小学生と直に触れ合うことで、児童の発達段階についての理解も深めることができています。この経験を来年度、拳ノ川小、佐賀小からの新入生の学習指導・生活指導に活かして行きたいと思っています。

4、防災お年寄り訪問

新型コロナウイルスの感染拡大のため2019年を最後に実施を見合わせていた「防災お年寄り訪問」ですが、6月27日(火)に4年ぶりに実施しました。全校生徒が2、3名のグループにわかれ、佐賀地区の約60人のお年寄り宅を訪問しました。

地震・津波などへの備えについて



てお年寄りからお話を伺ったり、「逃げトレ」というアプリを使って、ご自宅までの津波到達時間をお伝えしたり、9月の黒潮町総合防災訓練への参加を呼びかけるなどの活動を行いました。

もし、実際に震災が発生した場合、中学生がお年寄りの家まで助けに行くことはできません。当日お渡しした津波到達時間を書き込んだボードには「あきらめずに逃げて、生きて避難所で会いましょう」とのメッセージを添えています。

5、カツオマイスター

豊かな自然に恵まれた黒潮町で、「カツオ」は佐賀地区を代表する食材のひとつです。「佐賀で育つ子どもたちが、カツオ料理に親しみ、自分でカツオを捌いてタタキが作れるようになって欲しい」との願いから、黒潮町教育委員会の主催で6年前から始まりました。本校3年生の希望者が黒潮一番館さんの指導のもと薫焼きタタキを作ります。今年度は9名の生徒が参加し、6月から8月にかけて研修を受け、9月に実技披露会を行う予定です。